

# 外に学び、つくり直すための10冊

## [アジア編]

ダイナミズムに満ちたアジアの「いま」を知見することは、日本の未来を思索するうえで重要です。今号で紹介した事例の理解をより深める助けとなる10冊を選びました。



### 6 『世界を疾走する韓国経済の裏側』

—「バナソニック、ソニーは、なぜサムスンに追い越されたのか」

グローバル化が進むなか、「危うさを持ちながらも躍動する国家」、韓国。その社会を支える、経済人、政治家、さらに会社員など市井の人びとの動向にまで深く踏み込み、さまざまな企業の実態、教育や社会現象を徹底解剖しつつ日韓比較論を展開する。

小林英夫、李光宰=著  
ビジネス社/2012年



### 7 『チャイナ・エコノミー』

—「複雑で不透明な超大国 その見取り図と地政学へのインパクト」

名目的には中央集権でありながら、実は分権的な官僚制国家である中国の複雑な経済が、どのように動き、なぜ今日の形になったのか。政治・経済の仕組み、各経済・産業分野、人口・労働問題、消費者経済など、主要なトピックスを127の質問に答える形に整理した入門書。

アーサー・R・クローバー=著 東方雅美=訳  
白桃書房/2018年



### 8 『創造的福祉社会』

—「成長」後の社会構想と人間・地域・価値」

経済成長を絶対的な目標としなくても「豊かさ」が実現されていく社会を「定常型社会」と定義し、現在の「危機の時代」の新たな価値原理について、狩猟生活から農耕生活にシフトしてきた歴史をひもときながら論じる。「創造的」と「福祉社会」とは一見対立しそうな概念だが、コミュニティの歴史的な変遷が示されることで納得がいく。

広井良典=著  
ちくま新書/2011年



### 9 『韓国のグローバル人材育成力』

—「超競争社会の真実」

韓国企業の急成長のカギは「人材育成力」にある。国家と企業がタッグを組み徹底してきた教育システムを紹介するとともに、文化的背景や経済的背景にも目を向け分析。さらに、在韓国日本大使館初代科学技術一等書記官を務めていた著者の人脈を生かした各分野のキーパーソンへのインタビューで、現代韓国のリアルな声も把握できる。

岩瀬秀樹=著  
講談社現代新書/2013年



### 10 『中国新興企業の正体』

急速に普及したスマホ決済に支えられ世界最大規模にまで成長した、中国のニューエコノミー分野を代表する9企業。躍進の背景を探り、今後の日本経済を担う世代へのヒントとする。「まず試しにやってみて、問題があれば政府が規制する」という中国政府の方針が、法的グレーゾーンへの参入を躊躇させることなくベンチャー意欲をかき立てるといふ、日本との比較分析も興味深い。

沈才彬=著  
角川新書/2018年



### 1 『現代アジア経済論』

—「アジアの世紀」を学ぶ」

21世紀に入り、世界の経済成長を牽引する東アジア・東南アジア経済を学ぶ教科書として書かれた一冊。国を越え、有機的なつながりを深めている地域としてアジアを捉え、経済統合、資本・労働移動、少子高齢化、格差、環境問題などの多角的な切り口から、アジア経済のダイナミズムと特徴、構造的な変化を俯瞰できるよう構成されている。

遠藤環、伊藤亜聖、大泉啓一郎、後藤健太=編  
有斐閣ブックス/2018年



### 2 『シンガポール』

—「スマートな都市、スマートな国家」

小さな都市国家であるシンガポールは、独立後、綿密に設計されたガバナンスにより、持続可能な社会保護を供給し、快適に住める都市空間を作り出しながら、国際競争力を維持することに成功している。なぜ同国がグローバル社会・経済のなかで台頭できたのか、米国を代表する日本・東アジアの専門家である著者が多角的な視点で分析する。

ケント・カルダー=著 長谷川和弘=訳  
中央公論新社/2016年



### 3 『リー・クアンユー、世界を語る』

バラク・オバマ、習近平などの世界各国の歴代首脳や、グローバル企業の経営者たちから絶大な支持を集めるシンガポール建国の父、リー・クアンユー。本書は今日の世界が抱える国際問題に対する知見について、リーがこれまでに残した洞察や議論からエッセンスを抜き出したもの。混迷する世界を読み解くヒントを提示してくれる。

グラハム・アリソン、ロバート・D・ブラックウィル、アリ・ウィン=著 倉田真木=訳  
サンマーク出版/2013年



### 4 『私たちはみなメイカーだ』

—「メイカーが変革する教育、仕事、社会、そして自分自身」

3Dプリンターやオープンソースハードウェア等の登場を契機に増加する「メイカー」。「自分のために、社会のために、新しく何かを作る」という「メイカームーブメント」の創始者が、コンピュータ世代が向き合うものづくりのムーブメントの、これまでと今後の展望を記す初の著書。

デール・ダハティ、アリアン・コンラッド=著  
金井哲夫=訳  
オライリー・ジャパン/2017年



### 5 『コミュニティ交通のつくりかた』

—「現場が教える成功のしくみ」

地域コミュニティを支える交通。リ・デザインへの議論の場づくり、役割分担、工程表と評価、フィードバック手法を、大都市郊外・地方都市・過疎化地域の事例(本書40頁の神戸市・住吉台ぐるぐるバスも掲載)で紹介。住民、事業者、行政それぞれの取り組みが分かりやすく記されている。

森栗茂一=編著 猪井博登、時安洋、野木秀康、大井元揮、大井俊樹=著  
学芸出版社/2013年

